

令和 7 年度病虫害発生予察情報・注意報第 2 号
(斑点米カメムシ類の多発生に注意)

令和 7 年 7 月 1 0 日
新潟県病虫害防除所

病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 対象作物 水稻
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生程度 多い
- 4 注意報の根拠

- (1) アカスジカスミカメ (写真 1) の 7 月上旬の畦畔すくい取り調査における確認地点率は**平年比高く**、虫数も**平年比多い**。(表、図)
- (2) その他の斑点米カメムシ類の確認地点率は**やや高い～高く**、虫数は平年並～平年比**多い**。
- (3) 向こう 1 か月の気温は高いと予想されており、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動が活発になると推測される。

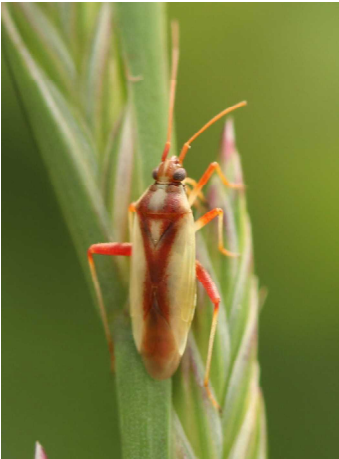


写真 1 アカスジカスミカメ
(作物研究センター撮影)

表 7 月上旬の水田畦畔すくい取り調査の結果

種類	確認地点率 (%)				平均虫数 (頭)			
	本年	前年	平年	平年比	本年	前年	平年	平年比
アカスジカスミカメ	71.6	60.8	49.1	高	34.7	12.8	10.6	多
アカヒゲホソミドリカスミカメ	55.4	51.4	44.2	やや高	4.1	2.4	4.5	並
オオトゲシラホシカメムシ	14.9	9.5	10.6	やや高	0.2	0.2	0.2	並
ホソハリカメムシ	4.1	4.1	1.2	高	0.1	0.0	0.0	多
クモヘリカメムシ	1.4	0	0.5	やや高	0.0	0	0.0	並

注) 県内 75 地点の 20 回振りすくい取り

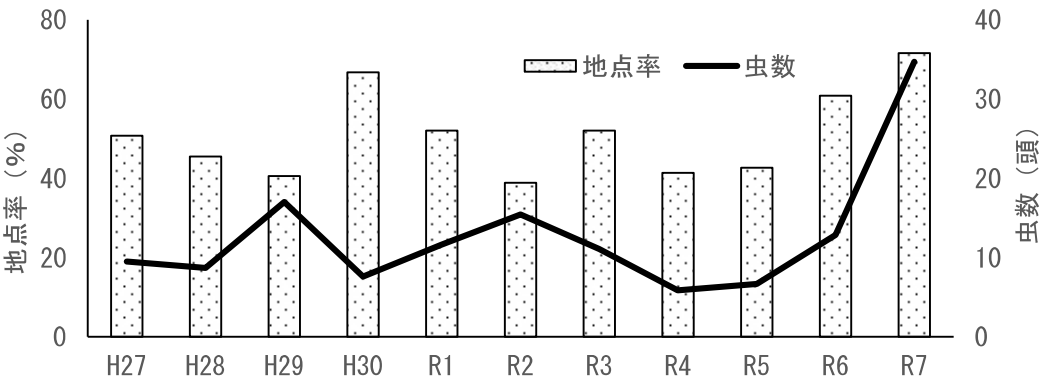


図 7 月上旬の水田畦畔すくい取り調査におけるアカスジカスミカメの確認地点率と平均虫数の年次推移

5 当面の対応と注意事項

(1) 水田周辺の雑草管理

主要種のアカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメは出穂したイネ科雑草を好み、7月以降は特にメヒシバ（写真 2）での発生が多い。

水田付近のカメムシの発生と増殖を抑えるため、出穂したイネ科雑草が繁茂しないように除草を徹底する。出穂したメヒシバは重点的に早めに刈り取る。水稻出穂後も、メヒシバ等のイネ科雑草が繁茂しないよう適宜草刈りを行う。



写真2 メヒシバ
作物研究センター撮影

(2) 水田内雑草の管理

アカスジカスミカメはノビエやイヌホタルイ等の穂に好んで産卵し、これらから発生した幼虫が水稻を加害する。特にイネの出穂前や登熟前半にこれらの雑草が出穂すると早期に幼虫が発生し、斑点米被害が多くなりやすい。これらの雑草は早めに除去する。

(3) 水田内の殺虫剤散布

ア 基本的な考え方

薬剤防除の回数と時期は、カメムシの種類と薬剤の種類により異なる。今年度は特にアカスジカスミカメの発生が多いことから、アカスジカスミカメに対する防除効果が高い薬剤を使用し、その適期に散布する。（令和7年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針を参照）

粒剤はアカスジカスミカメに対する効果が低い傾向があることから、できるだけ液剤や粉剤を使用する。粉剤を使用する際には、周囲に飛散しないように十分注意する。粒剤を使用する場合は、防除効果を確保するため

、好天が続く日に散布するとともに、散布時は浅水にし、追加の入水は田面水がなくなってからにする。

イ 個別防除

アカスジカスミカメは中晩生品種でも発生量が多くなりやすいので、中晩生品種も含め全品種に対して、それぞれの適期（1回散布の場合：出穂期の3日後頃～7日後）に確実に防除を行う。

ウ 共同防除

出穂期が共同防除予定日より10日以上早い水田は、共同防除前の加害が多いことから、当該水田の出穂期以降、共同防除の7日前頃に防除を行う。薬剤は共同防除で使用する薬剤とは異なる系統にする。

エ その他

クモヘリカメムシは中晩生品種で特に発生が多くなる。クモヘリカメムシの発生が多い地域では液剤または粉剤により、他の斑点米カメムシ類の防除も含めて、全品種に対して2回の防除を行う。

新潟県病害虫防除所
電 話：0258-35-0867
F A X：0258-35-7445